

# 令和3年度 南部町病院事業会計決算の概要

R4.9

## 1 決算の概況

- 令和3年度の病院事業会計決算は、総収益が23億7,053万1千円、総費用が23億2,269万4千円となり、4,783万8千円の黒字を計上し、平成28年度以来5年振りの黒字決算となった。
- 総収益は23億7,053万1千円となり、前年度から5,796万3千円増加した。
  - ・ 医業収益…入院収益は減少したが、外来収益と健検診の増加により2,225万6千円の増加
  - ・ 医業外収益…特別交付税（不採算地区中核病院）による町補助金により9,105万7千円の増加
  - ・ 特別利益…前年度の医療従事者慰労金の影響により5,535万円の減少
- 総費用は23億2,269万4千円となり、前年度から34万5千円減少した。
  - ・ 医業費用…給与費は減少したが、材料費、経費の増加により2,847万5千円の増加
  - ・ 特別損失…前年度の医療従事者慰労金の影響により5,540万円の減少
- 減価償却費等の現金移動を伴わない経費や収益を除いて、さらに資本的収支補填額等の損益計算外の費用を差し引いた実質収支（資金収支）は、前年度比で7,328万8千円改善し、2,900万7千円の黒字となった。

（単位：千円）

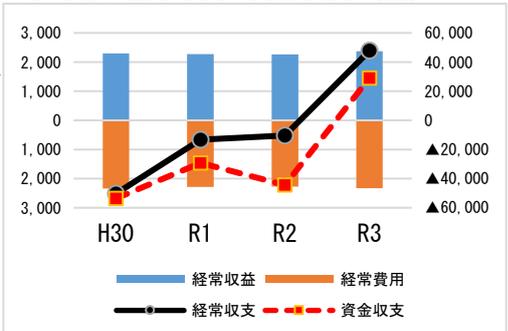
		令和3年度	令和2年度	対前年
総収益	A	2,370,531	2,312,568	57,963
経常収益	B	2,370,481	2,257,168	113,313
医業収益	C	1,719,407	1,697,151	22,256
医業外収益		651,075	560,017	91,057
特別利益	D	50	55,400	▲55,350
総費用	E	2,322,694	2,323,039	▲345
経常費用	F	2,322,694	2,267,639	55,055
医業費用	G	2,182,481	2,154,006	28,475
医業外費用		140,212	113,633	26,580
特別損失	H	0	55,400	▲55,400
医業収支	C-G	▲463,074	▲456,855	▲6,219
経常収支	B-F	47,788	▲10,470	58,258
特別損益	D-H	50	0	50
総収支	A-E	47,838	▲10,470	58,308

### 主な増減の要因

入院収益▲36,397、外来収益+30,506  
 他会計補助金+78,809  
 コロナ医療従事者慰労金▲55,400

給与費▲31,604、材料費+17,768、経費+32,727  
 企業債利息▲3,385  
 コロナ医療従事者慰労金▲55,400

### 【参考①】経常収支と資金収支の推移



### 経常収支と資金収支について

病院事業会計では発生主義を採用していることから、損益計算書上の経常収益と経常費用の差引である経常収支の額と、実際の現金の差引である資金収支の額は一致しません。令和3年度は、へき地医療拠点病院にかかわる不採算地区中核病院の交付税が増加したこと等により、経常収支は4,778万8千円となりましたが、実際の現金の差引である資金収支では、2,900万7千円の黒字となりました。

## 2 収益の状況

### (1) 入院

- ・ 入院収益は、診療単価の高い3階A病棟の患者延数が減少したことにより、全体で3,639万7千円減少した。
- ・ 患者延数は、3B病棟および4階病棟で増加したものの、全体で479人減少した。

	入院収益 (千円)		患者延数 (人)		診療単価 (円)		稼働率 (%)	
		対前年		対前年		対前年		対前年
3A	448,865	▲44,046	12,877	▲1,725	34,858	1,102	72.0%	▲9.6%
3B医療	202,780	▲3,163	9,800	147	20,692	▲643	89.5%	1.3%
3B介護	71,721	7,108	5,386	929	13,316	▲1,181	73.8%	12.7%
4階	245,061	6,821	15,081	336	16,250	93	82.6%	1.8%
5階	195,509	▲3,116	13,855	▲166	14,111	▲55	77.5%	▲0.9%
全体	1,163,937	▲36,397	56,999	▲479	20,420	▲463	78.9%	▲0.7%

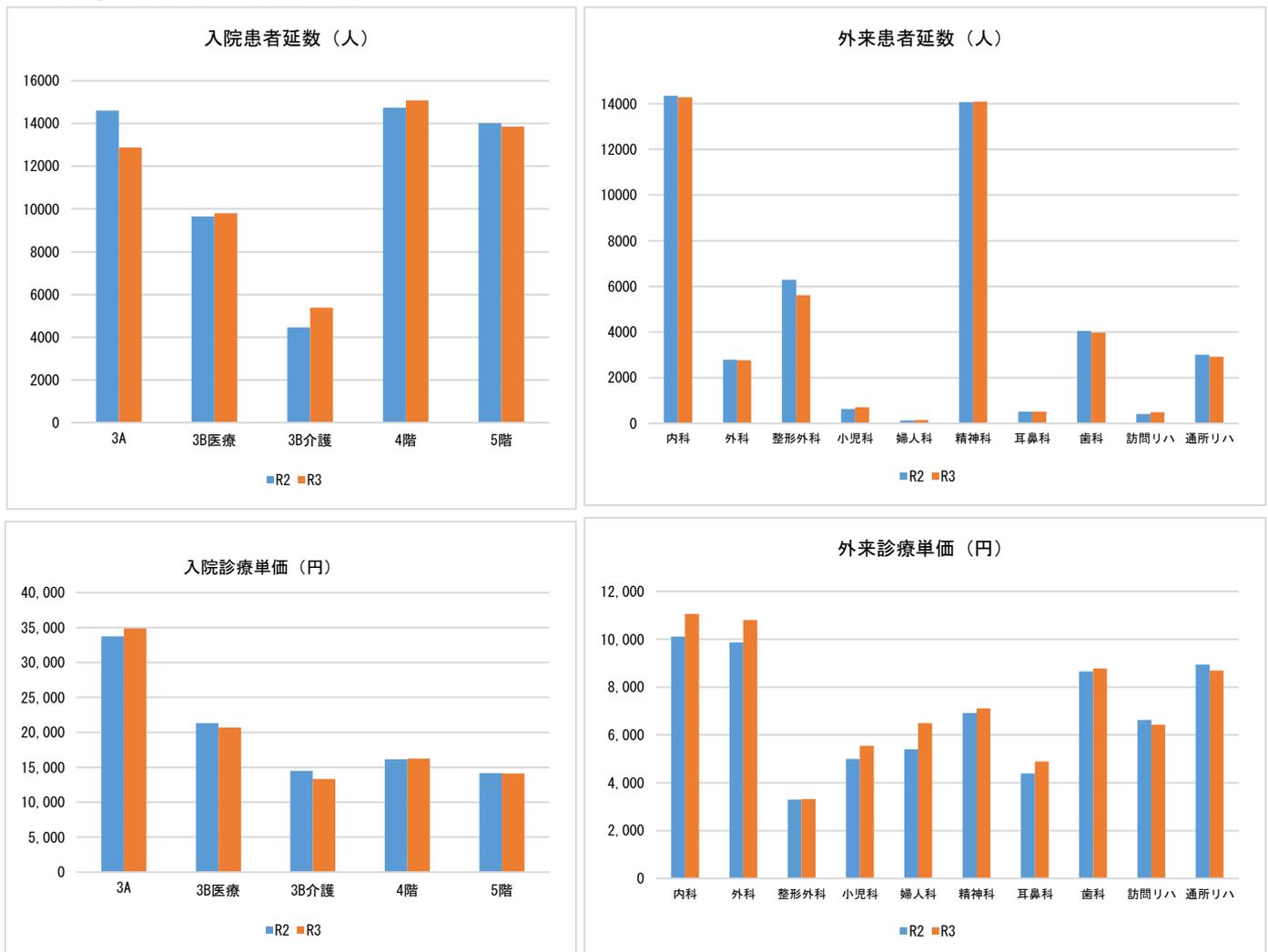
## (2) 外来

- ・ 外来収益は、患者延数は減少したもののPCR検査等の影響による診療単価の上昇により、全体で3,050万6千円増加した。
- ・ 患者延数は、内科、整形外科、歯科等で減少し、全体で743人減少した。

	外来収益 (千円)		患者延数 (人)		診療単価 (円)		一日平均患者数 (人)	
		対前年		対前年		対前年		対前年
内科	157,802	12,829	14,274	▲69	11,055	947	59.0	0.0
外科	29,921	2,419	2,769	▲20	10,806	945	11.4	▲0.1
整形外科	18,642	▲2,061	5,621	▲664	3,317	23	23.2	▲2.7
小児科	3,904	803	705	84	5,538	543	2.9	0.3
婦人科	915	181	141	5	6,488	1,095	3.4	0.2
精神科	100,245	3,032	14,091	34	7,114	198	58.2	0.4
耳鼻科	2,496	251	511	0	4,885	492	10.4	0.2
歯科	34,800	▲303	3,968	▲88	8,770	115	16.4	▲0.3
訪問リハ	3,133	431	487	79	6,433	▲190	2.0	0.3
通所リハ	25,356	▲1,555	2,917	▲94	8,693	▲245	12.1	▲0.3
全体	393,640	30,506	45,917	▲743	8,573	790	189.7	▲2.3

※その他に脳神経内科などがあるため、内訳の合計と全体は一致しません。

### 【参考②】患者数・診療単価の推移



### 3 費用の状況

- 給与費は、新型コロナウイルス感染症対応等による手当が1,365万6千円増加した一方、退職給付費について、鳥取県町村総合事務組合の負担割合の変更に伴い5,452万6千円減少したこと等により、全体で3,160万4千円減少した。
- 材料費は、輸血製剤等の高額な医薬品の使用増により薬品費が507万7千円増加した。また、PCR検査用の検査試薬の使用増により診療材料費が1,038万7千円増加し、全体で1,776万8千円増加した。
- 経費は、重油価格の上昇に伴う光熱水費と燃料費の増加や、経営コンサルや電子カルテ導入支援等の業務委託により、全体で3,272万7千円増加した。
- 資産減耗費は、電子カルテシステム等の除却に伴い、全体で1,151万1千円増加した。

(単位：千円)

	令和3年度	令和2年度	対前年
医業費用	2,182,481	2,154,006	28,475
給与費	1,399,704	1,431,308	▲31,604
材料費	172,875	155,107	17,768
経費	465,079	432,353	32,727
減価償却費	129,467	131,381	▲1,914
資産減耗費	12,171	660	11,511
研究研修費	3,185	3,198	▲13
医業外費用	140,212	113,633	26,580
特別損失	0	55,400	▲55,400
合計	2,322,694	2,323,039	▲345

#### 主な増減の要因

職員手当+13,656、退職給付費▲54,526
薬品費+5,077、診療材料費+10,387
光熱水費+2,488、燃料費+7,954、委託料+15,525
機械器具▲7,954、リース資産+4,813
固定資産除却費+11,511
図書費▲185、旅費▲23、研究雑費+196
企業債利息▲3,385
コロナ医療従事者慰労金▲55,400

### 4 資本的収支の状況

- 令和3年度は、企業債を活用し、電子カルテシステム等の総合医療情報システムを更新した。また、老朽化したマルチスライスCT装置を更新し、撮影時間の短縮による患者負担の軽減を図った。
- 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金1,204万5千円を活用し、新興感染症に対応するための機器を整備した。
- 鳥取県医療施設等設備整備費補助金2,469万1千円を活用し、へき地医療拠点病院としての機能を維持するために必要な医療機器を整備した。

(単位：千円)

	令和3年度	令和2年度	対前年
資本的収入	383,322	117,388	265,934
国・県・町補助金	39,095	38,675	419
企業債	263,100	3,000	260,100
他会計負担金	39,546	36,266	3,279
固定資産売却収入	1,950	0	1,950
一般会計繰入金	39,632	39,446	185
資本的支出	494,538	238,479	256,059
建設改良費	296,379	40,587	255,792
企業債償還金	198,159	197,232	927
貸付金	0	660	▲660
差引	▲111,216	▲121,091	9,875

#### 主な建設改良費

総合医療情報システム
マルチスライスCT装置
超音波画像診断装置
生体情報モニター
エントランスホール ロビーチェア
へき地巡回診療車
4階病棟及び5階病棟LED照明灯設置工事
5階病棟間仕切り開口新設工事

## 5 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目	令和3年度	令和2年度	対前年
固定資産 計	3,212,464	3,024,287	188,177
現金預金	408,061	109,582	298,479
未収金	350,599	351,888	▲1,288
貸倒引当金	▲3,046	▲3,046	0
貯蔵品	16,188	14,163	2,025
その他流動資産	0	0	0
流動資産 計	771,803	472,587	299,216
資産 合計	3,984,267	3,496,874	487,393
企業債	2,559,637	2,503,293	56,345
リース債務	35,236	0	35,236
退職給付引当金	0	0	0
固定負債 計	2,594,873	2,503,293	91,581
一時借入金	150,000	180,000	▲30,000
企業債	206,755	198,159	8,597
リース債務	5,670	0	5,670
未払金	370,892	71,338	299,554
賞与引当金	94,380	95,789	▲1,409
その他流動負債	7,406	8,890	▲1,484
流動負債 計	835,104	554,176	280,928
繰延収益 計	341,909	314,495	27,415
負債 合計	3,771,887	3,371,964	399,923
資本金 計	940,012	900,381	39,632
剰余金 計	▲727,632	▲775,470	47,838
資本 合計	212,380	124,911	87,469
負債資本 合計	3,984,267	3,496,874	487,393

### 【参考③】資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第1項の規定に基づき算定した資金不足比率については、次のとおりです。

資金不足比率 ▲8.3%  
(令和3年度)

[計算式]

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業規模}}$$

<資金の不足額>

(流動負債－企業債)－流動資産  
= ▲143,454 千円

※マイナスは資金不足なし

<事業規模>

医業収益 = 1,719,407 千円

## 6 キャッシュフロー計算書

- 令和3年度の期末残高には、翌年度に支払いを繰越した建設改良費約3億円の資金を含んでいる。また、平成30年度より、年度末の資金残高が不足するため市中金融機関からの一時借り入れを行っている。

(単位：千円)

	令和3年度	令和2年度
期首残高	109,582	37,215
業務活動によるCF	434,467	107,373
投資活動によるCF	▲209,467	39,780
財務活動によるCF	73,479	▲74,785
期末残高	408,061	109,582

### 【参考④】現金預金の残高と一時借入金の推移

(単位：千円)

年度	現金預金	一時借入金
平成29年度	82,616	0
平成30年度	75,993	50,000
令和元年度	37,215	100,000
令和2年度	109,582	180,000
令和3年度	408,061	150,000